

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立中央特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立中央特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	185人

1. 使用状況

寄贈物品名	オミ・ビスタ (映像装置)
使用学年及び人数	高等部1年(1人)、寄宿舎生(14人)、小学部1年(11人)
使用頻度	年10回程度
使用状況	自立活動や特別活動、余暇活動などで活用している。 また、授業等での活用が図られるように、長期休業中などに、教職員が実際に扱って教材研究ができるようにしている。 児童生徒の実態に応じて、フロアやテーブルで活動している。 ボールを転がして映像を変化させて楽しむ姿も見られている。
物品の使用による変化や効果	<p>【取り組み事例①寄宿舎】 寄宿舎の共有スペースにオミ・ビスタを設置し、寄宿舎生が余暇時間に楽しむことができるようエアホッケーを設定した。 ゲーム感覚で親しみやすく、身体の動きに制限のある生徒でも少しの動きで楽しむことができるため、夢中になって取り組む様子が見られた。普段、あまり関りのない生徒同士で楽しむ姿も見られたことから、オミ・ビスタを媒介として様々な人とコミュニケーションを取る力の向上が期待できる。 また、車椅子に乗っている生徒の前傾姿勢を促したり、上肢を積極的に動かしたりすることにも役立った。</p> <p>【取り組み事例②小学部】 小学部1年生が誕生会後のお楽しみ活動の時間に活用した。映し出された映像に働きかけると動かすことができる機能を利用して、ボールを転がして映し出されたお菓子を動かすゲームに取り組んだ。光り輝く映像に興味関心を示し、活動に参加していた。 集団で活動を楽しむ姿が見られ、積極的に体を動かすだけでなく、活発にコミュニケーションを図ろうとする姿も見られた。</p>
今後の活用の見通しや課題	今後も、自立活動や特別活動、余暇活動などでの活用が期待できる。 少しの動きでも反応するため、身体が動きにくい児童生徒にも活用することができる。常に仰向けの姿勢の児童生徒に対して、どのように映像を見せるかについて工夫が必要である。
その他希望や所感など	常設できる教室等を確保できると、今よりも気軽に使用できると思われる。

2. 活用の様子



写真1 寄宿舍での利用風景

余暇活動の時間に、エアホッケーをしているところ。
普段かかわりが少ない生徒と夢中になって対戦をする姿が見られた。
車いすを使用している生徒は、自然と前傾姿勢になり、いつも以上に上肢を動かすことができていた。



写真2 小学部1年生での利用風景

誕生日会後のお楽しみの時間に、利用しているところ。
ボールを転がして、映し出されているお菓子が動いていく様子を見て楽しんだ。
フロアに映っている映像に興味関心を示し、参加児童のみんながとても注目していた。
オミ・ビスタから流れる音にも耳を傾けている児童がいた。